

2016年8月実績概要（メモ）

（2016. 9. 15）

本年の定修も後半に差し掛かり、生産は前月対比で増加が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 505,000トン

前月比 + 0.9% (+ 4,700トン)
前年同月比 ▲15.2% (▲90,500トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	-	-
定修要因等	+ 1.3%	▲ 9.8%
能力増減	-	▲ 6.1%
稼働率変動	▲ 0.4%	+ 0.7%
生産増減率	+ 0.9%	▲15.2%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.3%→当月 95.0% ←前年同月94.3%
定修プラント：前月 2社2プラント→当月 1社1プラント ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に定修規模差からHD、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EG、SBR、BR、キシレンなどの13品目がプラスとなった。LD、PS、SM、ANの4品目は定修規模差等からマイナスとなった。

前年比では、定修規模の差や稼働率要因等からHD、PS、SM、EO、EG、AN、SBR、トルエンなどの10品目でマイナス。LD、PP、塩ビモノマー、BR、キシレンなどの7品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、定修規模の減少や稼働率要因からHD、PPはプラス。LDは定修規模の増加、PSは稼働率要因等からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因と定修規模差からLD、PPではプラス。HD、PSは主に稼働率要因等からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、夏季休暇に伴う営業日数の減少によりLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってマイナスとなった。

前年比では、前年は輸入品の減少が暫く続いたこともあり国産品の出荷が総じて増加基調にあった。本年は更にこれを上回りLD、PP、PSの3樹脂でプラスとなった。出荷分野としてはLDは加工紙（ラミネート）分野、PPは射出成形分野を中心に出荷が増加したのをはじめ、PSはほぼ全ての出荷分野で前年の出荷を上回る事となった。

ハ) 輸出

前月比では、これまで定修等による供給上の制約もあり輸出が抑え気味であったが、当月はHD、PPでプラスとなった。

前年比では、LD、PPでは依然としてマイナスが継続している。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLD、HD、PPで増加、PSのみが減少した。一方、在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PP、PSで僅かながら低下した。在庫水準としてはLD、HD、PPはほぼ適正水準、PSはややタイト気味となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LD	+ 9,000	2.8	2.7
HD	+ 4,600	2.7	2.6
PP	+ 45,700	2.6	2.5
PS	▲ 2,200	1.2	1.1

以上